opusdei.org

# 神のやさしさ(I):聖 書におけるいつくし み

いつくしみについてのシリーズ。今回の記事では、聖書に記されている主のいつくしみについて考察します。

# 2023/02/21

出エジプト記の神とモーセとの神秘的な対話の場面で、モーセが主に御顔をお見せくださいと頼むと主はお答えになります。「あなたはわたしの後ろを見るが、わたしの顔は見え

ない」「」と。新約においては、神であられる先生と弟子たちとの信頼に満ちた対話の中でフィリポがイエスに同じように「主よ、わたしたちに御父をお示しください」「」と頼みます。すると人となられた神は即座に「わたしを見た者は、父を見たのだ」「3」とお答えになります。

イエス・キリストは御父を啓示され ます。福音書を読み、黙想すると、 イエスの単純な話しぶりや生き方か ら神のみ姿が浮かび上がりますが、 中でも際立っているのがいつくしみ の深さです。神は、お選びになった 民の歩みの中でいつくしみを示され ましたが、それは人となられたみこ とばにおいて最高潮に達しました。 「御父のいつくしみのみ顔 | は<sup>[4]</sup>、 主の中に輝き出て、モーセにお教え になった、イスラエルの民を祝福す る司祭のあの甘美な祈りが最高度に 実現されます。「主があなたを祝福 し、あなたを守られるように。主が

み顔を向けてあなたを照らし、あなたに恵みを与えられるように。主が御顔をあなたに向けて、あなたに平安を賜るように」 へエスにおいて、神は私たちが御顔を余すことなく映し出せるようにし、この世は与えることのできない平和をお与えになります [6]。

# 探し、耳を傾ける神

創世記は最初のページから、神のページから、神のページから、神のページからま垣間見せてくれま垣間見エバは、裸木にはない。気を生まれまない。これまられまられまられまが、のですが、のですが、のですが、のですが、のですが、のですが、のですが、のがよまででででできる。神はかが、のですが、のがよまででででできる。できるはでいる。主はでは、と変をおりるに、皮衣をおりるに、皮衣をおりるに、皮衣をおりるに、皮衣をおりる。

なって、彼の罪にも拘らず彼らへのご自分の愛が失せたわけではないことをお表しになりました<sup>[8]</sup>。楽園の門は閉ざされましたが一、神のいつくしみの門は開け放たれたのです。「神はすべての人を不従順の状態に閉じ込められましたが、それは、すべての人を憐れむためだったので

す」[10]。

出エジプト記では、主が圧迫されて いるイスラエルの民を解放するため 決然と立ち上がられます。燃える柴 からモーセに話された言葉は、幾世 紀も隔たった創世記の言葉を思い起 こさせます。「わたしは、エジプト にいるわたしの民の苦しみをつぶさ に見、追い使う者のゆえに叫ぶ彼ら の叫び声を聞き、その痛みを知っ た。それゆえ、わたしは降って行 き、エジプト人の手から彼らを救い 出す」[11]。助けを求めている人に耳 を傾け、手を差し伸べることにぐず ぐずしがちなわたしたちにとって、

何と素晴らしい模範であることでしょうか。神は良き父親で、逆境にいる子どもたちを見ると、そこされを見るとでであるとでが紅海を起ことでが紅海を渡り終えると、言はシナイ山でモーセに厳かに富むれます。「憐れみ深く恵みに富むに、忍耐強く、慈しみとまことに満ちている」[12]と。

# 強烈な愛

微妙な色調を合せ考えることは理の 当然と言えるでしょう。

形容詞rajum(miserator同情)は、

「内臓、心の底、子宮」と言う意味 の言葉(réiem)から派生した言葉で、 聖書では子供の誕生を語るために使 われています<sup>[14]</sup>。Rajum(いつくし み)は、実際に血肉を分けた子供に対 する母親の心情を表わします。「女 が自分の乳飲み子を忘れるであろう か。母親が自分の産んだ子を憐れま ないであろうか。たとえ、女たちが 忘れようとも、わたしがあなたを忘 れることは決してない」[15]。神は 「自分の子を腕に抱き、その子をひ たすら愛し、守り、助け、あらゆる ものを与え、自分自身さえもささげ る母のようです。それが、このこと ばが連想させるイメージです。した がって、その愛は、『内臓が動かさ れるような』もっとも素晴らしい愛 と言えるでしょう」[16]。この愛は、 子どもたちから忘れられ、軽視され

たり捨てられたりします 一「わが民 よ、わたしはお前に何をしたという のか。何をもってお前を疲れさせた のか」<sup>[17]</sup> 一。しかしいつも、この 冷淡さを意に介することなく彼らを ゆるす心づもりでいます 一「いつま でも怒りを保たれることはない、神 はいつくしみを喜ばれるゆえに | □8□一。この愛は、子どもたちが人生 途上で遭遇し得る嘆かわしい状況に 寄り添います 一「さあ、わたしがお 前の傷を治し、打ち傷をいやそうし [19] ― 。もし離れてしまっても彼ら を癒す望みを放棄することはありま せん。この愛は、子どもたちを見守 り、責め立てられたり迫害されたり することによく気が付きます。「イ スラエルよ、おののくな。見よ、わ たしはお前を遠い地から、お前の子 孫を捕囚の地から救い出す。ヤコブ は帰って来て、安らかに住む。彼ら を脅かす者はいない」「20」。感動的で 心のこもった愛情あふれるもてなし です。「来て、銀を払うことなく、

穀物を求め、値を払うことなく、葡萄酒と乳を求めよ」<sup>[21]</sup>。これは、周りの人たちのことを気遣うようにういるです。周りの人たちと喜怒にし、誠実に彼らの傍りいることです。彼らのために祈りなど、であるという。彼らのために時間を使うのです。

Janún (misericors共感の)も神に当 てはまる言葉です。この形容詞は、 同情しているとも訳せますが、これ は「恩恵、助け」を意味するjenの派 生語です。それは厳密な正義を凌駕 する純粋な慈悲の心を表わします。 旧約の掟の一つに反映されている神 のお姿を表しています。「もし隣人 の上着を質にとる場合には、日没ま でに返さねばならない。なぜなら、 それは彼の唯一の衣服、肌を覆う着 物だからである。彼は何にくるまっ て寝ることができるだろうか。も し、彼がわたしに向かって叫ぶなら

ば、わたしは聞く。わたしは憐み深 い(janún)からである」<sup>[22]</sup>。これは、 正義の要求する基準に基づいて返済 できない貧者を思いやるための掟に 関することです。主は困っている人 を見放したりはなさいません。神は 彼に同情し、ご自分の民に霊感を与 え、真の正義を思い起こさせ、真の 正義への道を開くことがお出来にな ります。「わたしが喜ぶのは愛で あっていけにえではなく、神を知る ことであって焼き尽くす献げ物では ない」[23]。本当に神を知っているな ら兄弟の苦しみが分かるはずです。 主に情け深い視線をお願いしたら、 他人の必要を見て取り、隣人に仕え るチャンスに事欠くことはないで しょう。この聖年は、他のことと相 まって、日々の生活の中で物的ない つくしみの業を実行する良い機会で す。

### 神は忠実で、待つことが出来る

詩篇には、また神はmultae misericordiae(jésed)非常に憐れみ深 いと言っています。jésedは「同情、 あわれみしなどと訳し出される親密 な言葉です。何よりも、親子や夫婦 間のつながりに関わる心情を表す言 葉です。それゆえ、ヤコブは死の間 際に息子のヨセフを呼び、こう言っ ています。「わたしの願いを聞いて くれるなら、わたしのために慈しみ (jésed)とまことをもって実行する と、誓って欲しい。どうか、わたし をこのエジプトには葬らないでく れ」[24]。これは、子に良い息子とし て振る舞うことを望む、父親の最後 の願いです。ともかく、神は無限に 「慈しみ | 深い方で、私たちをいつ も子として扱ってくださいます。そ の恩恵と選びは取り消し得ないもの です[25]。「いつくしみ深い神は、 『忍耐強い』とも告げられていま

す。それは文字通り、『心が広い』 こと、『我慢し、忍耐する力が強 い』ことです。神は待ってください ます。神の時間は、人間の性急な時間とは違います。神は待つすべを知っている賢い農夫のように、毒麦が混ざっていても、よい種が育つままに待っておられるのです(マタイ13,24-30)」<sup>[26]</sup>。

最終的に、主の慈しみは深い真理et veritatis(émet) に裏打ちされている と確言できます。事実、慈しみは、 恥辱や傷をなかったかのように覆っ てしまう見せかけのものなどではあ りません。傷を治すには、「消毒し 薬を塗ることなく」[27] 包帯すること はないはずです。主は「医師ですか ら、キリストの恩恵が心の奥まで注 ぎ込まれるにおまかせすれば、私た ちの利己主義をいやして下さいま す | <sup>[28]</sup>。いやして下さるにおまかせ するとは、自分が罪人であると弁 え、癒して頂くための手段を講じる 心づもりで、自分の傷をお見せする ことです。「傷口を見せなさい。外 科手術のように痛くても、徹底的な

治療を受けて感染する危険を完全に防ぐためである」<sup>[29]</sup>。そうすると主は「たとえ、お前たちの罪が緋のようでも、雪のように白くなることができる」<sup>[30]</sup>と、約束なさいます。

神と人々と確固とした穏やかな関係 が築かれるのは、それが真理に基づ いている時だけです。真の幸せは 一 聖アウグスティヌスが、この世と私 たちを待っている天国の生活を考え て書いている 一、gaudium et veritate<sup>[31]</sup>真理のもたらす喜びです。 真理の中に生きることは、ある事柄 を知る以上のことです。ですから、 ヘブライ語のémetには「真理」と 「忠実」の意味があります。誠実な 人は忠実であり、忠実でありたいと 望む人は真理を愛します。「モーセ に対する神の啓示の最後のことばは 『まことに満ち』です。神の『まこ と『が欠けることは決してありませ ん。なぜなら、詩篇作者が言うよう に、主は、わたしたちを導くため

に、決してまどろむことなく、つね に眠らずにわたしたちを見守ってく ださる守護者だからです。『どう か、主があなたを助けて、足がよろ めかないようにし、まどろむことな く見守ってくださるように。見よ、 イスラエルを見守るかたは、まどろ むことなく、眠ることもない。…… 主がすべての災いを遠ざけてあなた を見守り、あなたの魂を見守ってく ださるように。あなたの出で立つの も帰るのも主が見守ってくださるよ うに。今も、そしてとこしえに』 (詩篇21,4-4.7-8) 」<sup>[32]</sup>。

旧約聖書に出ている神のいつくしみは、一言で言うなら、主は、困っている子を迎える母親であり、本当に、その弱さや過ち、罪とか不忠実とかの現状を見極めて温かく愛情深く包み込みます。神は単に担ってら彼を解放するだけではなく、癒し、子

としての尊厳を取り戻してください ます。

# 御父のいつくしみのみ顔

「初めからあったもの、わたしたち が聞いたもの、目で見たもの、よく 見て、手で触れたものを伝えます。 すなわち、命の言について··· | [33]。 イエスの愛された使徒の熱烈なこの 言葉は今の私たちを魅了して止みま せん。彼は、イエスにおいて神を 見、神に触れたのでした。そして今 は私たちすべての信者がそうできま す。それは「わたしたちの喜びが満 ちあふれるようになるためです| <sup>[34]</sup>。イエス・キリストは「人として 神のいつくしみを帯びています。で すから、キリストに出会うことは神 のいつくしみに出会うことです」 <sup>[35]</sup>。創立者は絶えず「主が神として の権威と人間味あふれた仕草をお示 しになる場面、あるいは、人間的で あると共に神的な言葉づかいで語ら

れるあの荘厳なゆるしの物語、子ど もたちへの疲れを知らぬ愛の話な ど | <sup>[36]</sup> を味わうように勧めました。

キリストは善きサマリア人です<sup>[37]</sup>。 主は、霊的物的な困難がどんなもの であろうと困っている人を無視され ることはありません。関心を寄せ、 手段を講じられます。「神は私たち の惨めさに吸い寄せられて近づき手 当をしてくださいます。人となられ たのはこの手を持つためでした。イ エスの仕事は個人的です。人が罪を 犯したので、彼を癒そうと人として 降られたのです」<sup>[38]</sup>。主の全生活は いつくしみに満ちあふれたものでし た。天井から吊り降ろされた中風者 の罪をゆるし<sup>[39]</sup>、ナインでは一人息 子を亡くした未亡人のため息子を蘇 らせ<sup>[40]</sup>、ついてきた群衆が疲れてし まわないようにとパンを増やしてお 与えになりました<sup>[41]</sup>。「どんな状況 でもイエスを動かしていたのは、あ われみの心以外の何ものでもありま

せん。このいつくしみをもって、対話する相手の心を理解し、その人の本当の望みにお応えになりました」
[42]。

主の無条件のこの愛は、ご受難にお いて頂点に達しました。そこで全て の人をゆるし、私たちの罪を忍び、 苦々しい後味のない言葉を御残しに なりました。十字架上では誠実な盗 賊の告白に同情されます。「我々 は、自分のやったことの報いを受け ているのだから、当然だ」。そして すぐにお願いします。「イエスよ、 あなたのみ国においでになるときに は、わたしを思い出してください! <sup>[43]</sup>。いかに素早くいつくしみをお表 しになるかが表れているところで す。イエスは、悪かったことを素直 に認めて赦しを乞う、この愛情に飢 えた人の願いを聞き入れてその罪を ゆるし、天の門をお開きになりま す。「はっきり言っておくが、あな たは今日わたしと一緒に楽園にい

る」[44]。主のこのお答えは、主がいたの時間をお待ちであったかを、この時間をお待ちであってはないます。このようにならずのようにならずのです。人間のでは、変えいでは、でしているでは、変おしたがです。です」[45]。

十字架の下には聖マリアが立っておられます。創立者が神の照らしに従って私たちに教えたように聖母の取次ぎに信頼して、神に向かいましょう。Adeamus cum fiducia ad turonum gloriae ut misericordiam consequamur 整しみを受けるように大胆に恵みの座に近づこう。

#### Francisco Varo

<sup>[1]</sup> 出エジプト記33,23。

<sup>[2]</sup> ヨハネ14,8。

- <sup>[3]</sup> ヨハネ14,9。
- [4] フランシスコ、大勅書 Misaricordiae Vultus n.1。
- <sup>[5]</sup> 民数記6,24-26。
- <sup>[6]</sup> ヨハネ14,27参照。
- [7] フランシスコ、2013年4月7日説 教。創世記3,9参照。
- <sup>[8]</sup> 創世記3,14-21参照。
- <sup>[9]</sup> 創世記3,24参照。
- <sup>[10]</sup> □ − マ11,32。
- [11] 出エジプト記3,7-8。
- 「12] 出エジプト記34,6。同じ表現が聖書の随所に見られる。特に詩篇 86(85),15と103(102),8。
- [13] 詩篇86(85),15。

[14] 例えば、出エジプト記13,2:「全ての初子を聖別してわたしにささげよ。イスラエルの人々の間で初めに胎(réjem)を開くものはすべて、人であれ家畜であれ、わたしのものである」。

<sup>[15]</sup> イザヤ49,15。

<sup>[16]</sup> フランシスコ、2016年1月13日一 般謁見の講話。

<sup>[17]</sup> ミカ書6,3。

<sup>[18]</sup> ミカ書7,18。

<sup>[19]</sup> エレミア30,17。

<sup>[20]</sup> エレミア46.27。

[21] イザヤ55,1。

[22] 出エジプト記22,25-26。

[23] ホセア書6,6。

- <sup>[24]</sup> 創世記47,29。
- [25] ローマ11,29参照。
- <sup>[26]</sup> フランシスコ、2016年1月13日一 般謁見の講話。
- <sup>[27]</sup> フランシスコ、2014年10月18日 一般謁見の講話。
- [28] 『知識の香』93番。
- [29] 『鍛』192番。
- <sup>[30]</sup> イザヤ1,18。
- <sup>[31]</sup> 聖アウグスティヌス、「告白」X. 23.33。
- [32] フランシスコ、2016年1月13日一 般謁見の講話。
- [33] 1ヨハネ1,1。
- [34] 1ヨハネ1,4。

- [35] ヨゼフ・ラッチンガー、2005年4 月18日教皇選出のためのミサの説 教。
- [36] 『神の朋友』216番。
- <sup>[37]</sup> ルカ10,33-35参照。
- □ フランシスコ、2013年10月22日 聖マルタ教会での説教。
- [39] マルコ2,3-12参照。
- \_\_ ルカ7,11-15参照。
- \_\_\_ マタイ14,13-21;15,32-39参照。
- <sup>[42]</sup> フランシスコ、大勅書「イエス・ キリスト、父のいつくしみのみ顔」 8番。
- [43] ルカ23,41-42。
- <sup>[44]</sup> ルカ23,43。

<sup>[45]</sup> フランシスコ、2016年2月20日謁 見の講話。

[46] ヘブライ4,16参照。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/kamino-yasashisa-1/(2025/12/15)